

## 会員へのお知らせ

学会会員殿

### 子宮頸癌，子宮体癌進行期分類の改定について

子宮頸癌，子宮体癌，子宮体部肉腫，外陰癌の新 FIGO 進行期分類 (FIGO 2008) が，2009 年 (平成 21 年) から発効となったことに伴い，子宮頸癌，子宮体癌取扱い規約改訂委員会で改訂作業をすすめ，子宮頸癌進行期分類 (日産婦 2011, FIGO 2008)，子宮体癌進行期分類 (日産婦 2011, FIGO 2008) へ改定されました。平成 23 年度第 3 回理事会 (平成 23 年 12 月 17 日) において，この改定が承認されましたので，会員の皆様にお知らせいたします。

また，平成 24 年 4 月に子宮頸癌，子宮体癌取扱い規約，ともに第 3 版 (日本産科婦人科学会，日本病学会，日本医学放射線学会，日本放射線腫瘍学会 編) が発行されました。それに伴い，子宮頸癌と子宮体癌については，平成 24 年 1 月 1 日の症例より新進行期分類に沿って，治療ならびに症例登録を行っていただくようお願いいたします。2012 年治療症例の登録は，新しい規約に基づいて平成 24 年 9 月から登録開始になりますことを申し添えます。

尚，各癌種の FIGO 進行期分類，日産婦進行期分類変更点の概略を以下に呈示いたしました。

平成24年4月

公益社団法人 日本産科婦人科学会  
理事長 小 西 郁 生  
婦人科腫瘍委員会  
委員長 青 木 陽 一

---

子宮頸癌の FIGO 進行期分類新旧対照表

表 1. 旧 FIGO 臨床進行期分類 (1994 年)

0 期：上皮内癌  
 I 期：癌が子宮頸部に限局するもの（体部浸潤の有無は考慮しない）  
 IA 期：組織学的にのみ診断できる浸潤癌。肉眼的に明らかな病巣はたとえ表層浸潤であっても Ib 期とする。浸潤は、計測による間質浸潤の深さが 5mm 以内で、縦軸方向の広がりが 7mm をこえないものとする。浸潤の深さは、浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して 5mm をこえないものとする。尿管（静脈またはリンパ管）侵襲があっても進行期は変更しない。  
 IA1 期：間質浸潤の深さが 3mm 以内で、広がりが 7mm をこえないもの。  
 IA2 期：間質浸潤の深さが 3mm をこえるが 5mm 以内で、広がりが 7mm をこえないもの。  
 IB 期：臨床的に明らかな病巣が子宮頸部に限局するもの、または臨床的に明らかではないが Ia 期をこえるもの。  
 IB1 期：病巣が 4cm 以内のもの。  
 IB2 期：病巣が 4cm をこえるもの。  
 II 期：癌が子宮頸部をこえて広がっているが、骨盤壁または膈壁下 1/3 には達していないもの。  
 IIA 期：膈壁浸潤が認められるが、子宮傍組織浸潤は認められないもの。  
 IIB 期：子宮傍組織浸潤の認められるもの。  
 III 期：癌浸潤が骨盤壁にまで達するもので、腫瘍塊と骨盤壁との間に cancer free space を残さない。または、膈壁浸潤が下 1/3 に達するもの。  
 IIIA 期：膈壁浸潤は下 1/3 に達するが、子宮傍組織浸潤は骨盤壁にまでは達していないもの。  
 IIIB 期：子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの。または明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの。  
 IV 期：癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの。  
 IVA 期：膀胱、直腸粘膜への浸潤があるもの。  
 IVB 期：小骨盤腔をこえて広がるもの。

表 2. 新 FIGO 臨床進行期分類 (2008 年)

(0 期は削除された)  
 I 期：癌が子宮頸部に限局するもの（体部浸潤の有無は考慮しない）  
 IA 期：組織学的にのみ診断できる浸潤癌。肉眼的に明らかな病巣はたとえ表層浸潤であつても Ib 期とする。浸潤は、計測による間質浸潤の深さが 5mm 以内で、縦軸方向の広がりが 7mm をこえないものとする。浸潤の深さは、浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して 5mm をこえないものとする。尿管（静脈またはリンパ管）侵襲があつても進行期は変更しない。  
 IA1 期：間質浸潤の深さが 3mm 以内で、広がりが 7mm をこえないもの。  
 IA2 期：間質浸潤の深さが 3mm をこえるが 5mm 以内で、広がりが 7mm をこえないもの。  
 IB 期：臨床的に明らかな病巣が子宮頸部に限局するもの、または臨床的に明らかではないが IA 期をこえるもの。  
 IB1 期：病巣が 4cm 以内のもの。  
 IB2 期：病巣が 4cm をこえるもの。  
 II 期：癌が子宮頸部をこえて広がっているが、骨盤壁または膈壁下 1/3 には達していないもの。  
 IIA 期：膈壁浸潤が認められるが、子宮傍組織浸潤は認められないもの。  
 IIA1 期：病巣が 4cm 以内のもの。  
 IIA2 期：病巣が 4cm をこえるもの。  
 IIB 期：子宮傍組織浸潤の認められるもの。  
 III 期：癌浸潤が骨盤壁にまで達するもので、腫瘍塊と骨盤壁との間に cancer free space を残さない。または、膈壁浸潤が下 1/3 に達するもの。  
 IIIA 期：膈壁浸潤は下 1/3 に達するが、子宮傍組織浸潤は骨盤壁にまでは達していないもの。  
 IIIB 期：子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの。または明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの。  
 IV 期：癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの。  
 IVA 期：膀胱、直腸粘膜への浸潤があるもの。  
 IVB 期：小骨盤腔をこえて広がるもの。

赤字が変更箇所

子宮頸癌の日産婦進行期新旧対照表

表1. 旧日産婦臨床進行期分類 (1997年)

0期：上皮内癌  
 I期：癌が子宮頸部に限局するもの（体部浸潤の有無は考慮しない）  
 Ia期：組織学的にのみ診断できる浸潤癌。肉眼的に明らかな病巣はたとえ表層浸潤であつてもIb期とする。浸潤は、計測による間質浸潤の深さが5mm以内で、縦軸方向の広がりが7mmをこえないものとする。浸潤の深さは、浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して5mmをこえないものとする。尿管（静脈またはリンパ管）侵襲があつても進行期は変更しない。  
 Ia1期：間質浸潤の深さが3mm以内で、広がりが7mmをこえないもの。  
 Ia2期：間質浸潤の深さが3mmをこえるが5mm以内で、広がりが7mmをこえないもの。  
 Ib期：臨床的に明らかな病巣が子宮頸部に限局するもの、または臨床的に明らかでないがIa期をこえるもの。  
 Ib1期：病巣が4cm以内のもの。  
 Ib2期：病巣が4cmをこえるもの。  
 II期：癌が子宮頸部をこえて広がっているが、骨盤壁または膈壁下1/3には達していないもの。  
 IIa期：膈壁浸潤が認められるが、子宮傍組織浸潤は認められないもの。  
 IIb期：子宮傍組織浸潤の認められるもの。  
 III期：癌浸潤が骨盤壁にまで達するもので、腫瘍塊と骨盤壁との間に cancer free spaceを残さない。または、膈壁浸潤が下1/3に達するもの。  
 IIIa期：膈壁浸潤は下1/3に達するが、子宮傍組織浸潤は骨盤壁にまでは達していないもの。  
 IIIb期：子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの。または明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの。  
 IV期：癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの。  
 IVa期：膀胱、直腸粘膜への浸潤があるもの。  
 IVb期：小骨盤腔をこえて広がるもの。

表2. 新日産婦臨床進行期分類 (2011年)

(0期は削除された)  
 I期：癌が子宮頸部に限局するもの（体部浸潤の有無は考慮しない）  
 IA期：組織学的にのみ診断できる浸潤癌。肉眼的に明らかな病巣はたとえ表層浸潤であつてもIB期とする。浸潤は、計測による間質浸潤の深さが5mm以内で、縦軸方向の広がりが7mmをこえないものとする。浸潤の深さは、浸潤がみられる表層上皮の基底膜より計測して5mmをこえないものとする。尿管（静脈またはリンパ管）侵襲があつても進行期は変更しない。  
 IA1期：間質浸潤の深さが3mm以内で、広がりが7mmをこえないもの。  
 IA2期：間質浸潤の深さが3mmをこえるが5mm以内で、広がりが7mmをこえないもの。  
 IB期：臨床的に明らかな病巣が子宮頸部に限局するもの、または臨床的に明らかでないがIA期をこえるもの。  
 IB1期：病巣が4cm以下のもの。  
 IB2期：病巣が4cmをこえるもの。  
 II期：癌が子宮頸部をこえて広がっているが、骨盤壁または膈壁下1/3には達していないもの。  
 IIA期：膈壁浸潤が認められるが、子宮傍組織浸潤は認められないもの。  
 IIA1期：病巣が4cm以下のもの。  
 IIA2期：病巣が4cmをこえるもの。  
 IIB期：子宮傍組織浸潤の認められるもの。  
 III期：癌浸潤が骨盤壁にまで達するもので、腫瘍塊と骨盤壁との間に cancer free spaceを残さない。または、膈壁浸潤が下1/3に達するもの。  
 IIIA期：膈壁浸潤は下1/3に達するが、子宮傍組織浸潤は骨盤壁にまでは達していないもの。  
 IIIB期：子宮傍組織浸潤が骨盤壁にまで達しているもの。または明らかな水腎症や無機能腎を認めるもの。  
 IV期：癌が小骨盤腔をこえて広がるか、膀胱、直腸粘膜を侵すもの。  
 IVA期：膀胱、直腸粘膜への浸潤があるもの。  
 IVB期：小骨盤腔をこえて広がるもの。

赤文字が変更箇所

子宮体癌の FIGO 進行期分類新旧対照表

表 1. 旧 FIGO 臨床進行期分類 (1988 年)

- I 期：癌が子宮体部に限局するもの
- IA 期：子宮内膜に限局するもの
- IB 期：浸潤が子宮筋層 1/2 以内のもの
- IC 期：浸潤が子宮筋層 1/2 を超えるもの
- II 期：癌が体部および頸部に及ぶもの
- IIA 期：頸管腺のみを侵すもの
- IIB 期：頸部間質浸潤のあるもの
- III 期：癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔を超えていないもの、または所属リンパ節転移のあるもの
- IIIA 期：腫瘍が子宮体部漿膜ならびに/あるいは付属器を侵す、ならびに/あるいは腹腔細胞診陽性のあるもの
- IIIB 期：腔転移のあるもの
- IIIC 期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
- IV 期：癌が小骨盤腔を超えているか、明らかに膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎を侵すもの
- IVA 期：膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎のあるもの
- IVB 期：腹腔内ならびに/あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

注：すべての類内膜腺癌は腺癌成分の形態により Grade 1, 2, 3, に分類される。

表 2. 新 FIGO 臨床進行期分類 (2008 年)

- I 期：癌が子宮体部に限局するもの
- IA 期：浸潤が子宮筋層 1/2 以内のもの
- IB 期：浸潤が子宮筋層 1/2 を超えるもの
- II 期：癌が頸部間質に浸潤するが、子宮を超えていないもの\*
- III 期：癌が子宮外にひろがるが、小骨盤を超えていないもの、または所属リンパ節へ広がるもの
- IIIA 期：子宮漿膜ならびに/あるいは付属器を侵すもの
- IIIB 期：腔ならびに/あるいは子宮傍結合織へ広がるもの
- IIIC 期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
- IIIC1 期：骨盤リンパ節陽性のも
- IIIC2 期：骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず、傍大動脈リンパ節陽性のも
- IV 期：癌が小骨盤腔を超えているか、明らかに膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎を侵すもの、ならびに/あるいは遠隔転移のあるもの
- IVA 期：膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎のあるもの
- IVB 期：腹腔内ならびに/あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

\*頸管腺浸潤のみは II 期ではなく I 期とする。

注 1：すべての類内膜腺癌は腺癌成分の形態により Grade 1, 2, 3, に分類される。  
 注 2：陽性腹腔洗浄細胞診の予後因子としての重要性については一致した報告がないので、IIIA 期から細胞診を除外する方向で行くべきであるとしたが、細胞診は進行期決定に際し必要な推奨検査として含まれるべきであり、すべての症例でその結果は記録されるべきであるとしている。

注 3：体癌の進行期分類は悪性混合性ミューラー管腫瘍 (MMMT) にも適用される。MMMT, 漿液性乳頭状腺癌, 明細胞腺癌, G3 類内膜腺癌においては横行結腸下の大網の十分なサンプリングが推奨される。

注 4：再発リスクの高い体癌では転移が疑われる骨盤リンパ節の切除のみでよい、一方再発リスクの高いものでは骨盤リンパ節と傍大動脈リンパ節の系統的な廓清を行うべきである。

赤字が変更箇所

子宮体癌の日産婦臨床進行期分類新旧対照表

表1. 旧日産婦臨床進行期分類 (1995年)

- 0期：子宮内膜異型増殖症
  - I期：癌が子宮体部に限局するもの
    - Ia期：子宮内膜に限局するもの
    - Ib期：浸潤が子宮筋層1/2以内のもの
    - Ic期：浸潤が子宮筋層1/2をこえるもの
  - II期：癌が体部および頸部に及ぶもの
    - IIa期：頸管腺のみを侵すもの
    - IIb期：癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔を侵すもの
  - III期：癌が子宮外に広がるが、小骨盤腔をこえていないもの、または所属リンパ節転移のあるもの
    - IIIa期：漿膜ならびに/あるいは付属器を侵す、ならびに/あるいは腹腔細胞診陽性のもの
    - IIIb期：陰転移のあるもの
    - IIIc期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
  - IV期：癌が小骨盤腔をこえているか、明らかに膀胱または腸粘膜炎を侵すもの
    - IVa期：膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎のあるもの
    - IVb期：腹腔内ならびに/あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの
- 注：すべての類内膜腺癌は腺癌成分の形態により Grade 1, 2, 3, に分類される。

表2. 新日産婦臨床進行期分類 (2011年)

- (O期は削除された)
- I期：癌が子宮体部に限局するもの
  - IA期：浸潤が子宮筋層1/2未満のもの
  - IB期：浸潤が子宮筋層1/2以上のもの
- II期：癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえていないもの\*
- III期：癌が子宮外に広がるが、小骨盤をこえていないもの、または所属リンパ節へ広がるもの
  - III A期：子宮漿膜ならびに/あるいは付属器を侵すもの
  - III B期：陰ならびに/あるいは子宮傍組織へ広がるもの
  - III C期：骨盤リンパ節ならびに/あるいは傍大動脈リンパ節転移のあるもの
- III C1期：骨盤リンパ節陽性のもの
- III C2期：骨盤リンパ節への転移の有無にかかわらず、傍大動脈リンパ節陽性のもの
- IV期：癌が小骨盤腔をこえているか、明らかに膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎を侵すもの、ならびに/あるいは遠隔転移のあるもの
  - IV A期：膀胱ならびに/あるいは腸粘膜炎のあるもの
  - IV B期：腹腔内ならびに/あるいは鼠径リンパ節転移を含む遠隔転移のあるもの

\*頸管腺浸潤のみはII期ではなくI期とする。

- 注1：すべての類内膜腺癌は腺癌成分の形態により Grade 1, 2, 3, に分類される。
- 注2：陽性腹腔洗浄細胞診の予後因子としての重要性については一貫した報告がないので、III A期から細胞診は除外されたが、将来再び進行期決定に除し必要な推察検査として含まれる可能性があり、すべての症例でその結果は登録の記録に記録することとした。
- 注3：子宮体癌の進行期分類は悪性ミューラー管混合腫瘍(癌肉腫)にも適用される。癌肉腫、明細胞腺癌、漿液性乳頭状腺癌においては横行結腸下の大網の十分なサンプリングが推奨される。
- 注4：再発リスクの低い子宮体癌では転移が疑われる骨盤リンパ節の切除のみでよい。一方再発リスクの高いものでは骨盤リンパ節と傍大動脈リンパ節の系統的な麻酔を行うべきである。

赤字が変更箇所

子宮体部肉腫の FIGO 進行期分類新旧対照表

表 1. 旧 FIGO 臨床進行期分類 (1994 年)

子宮体部肉腫に対しては体癌の進行期分類を適用する.

表 2. 新 FIGO 臨床進行期分類 (2008 年)

I 期 (*): 腫瘍が子宮に限局
IA 期: 腫瘍サイズ $\leq 5\text{cm}$
IB 期: 腫瘍サイズ $> 5\text{cm}$
II 期: 腫瘍が骨盤腔に及ぶもの
IIA 期: 付属器浸潤
IIB 期: その他の骨盤内組織への浸潤
III 期: 腫瘍が骨盤外に進展するもの
IIIA 期: 1 部位
IIIB 期: 2 部位以上
IIIC 期: 骨盤リンパ節ならびに/あるいは膀胱ならびにリンパ節転移のあるもの
IV 期
IVA 期: 膀胱ならびに/あるいは直腸に浸潤のあるもの
IVB 期: 遠隔転移のあるもの
注 1: (* ) 腺肉腫に関しては I 期は下記のように細分類する.
I 期: 子宮に限局
IA 期: 子宮体部内限, 頸部内限に限局するもの (筋層浸潤無し)
IB 期: 筋層浸潤が 1/2 以内のもの
IC 期: 筋層浸潤が 1/2 をこえるもの
注 2: 子宮内膜間質肉腫については, 子宮体部腫瘍と卵巣・骨盤内子宮内膜症病変を伴う卵巣・骨盤内腫瘍が同時に存在する場合, それぞれ独立した腫瘍として取扱う.
注 3: 癌肉腫は体癌の進行期分類を使用する.

外陰癌の FIGO 進行期分類新旧対照表

表 1. 旧 FIGO 臨床進行期分類 (1988 年)

0 期：上皮内がん  
 I 期：外陰または会陰に限局した最大径 2cm 以下の腫瘍，リンパ節転移はない。  
 IA 期：外陰または会陰に限局した最大径 2cm 以下の腫瘍で，間質浸潤の深さが 1mm 以下のもの\*  
 IB 期：外陰または会陰に限局した最大径 2cm 以下の腫瘍で，間質浸潤の深さが 1mm を超えるもの  
 II 期：外陰および/または会陰のみに限局した最大径 2cm を超える腫瘍，リンパ節転移はない。  
 III 期：腫瘍の大きさを問わず  
 (1) 隣接する下部尿道および/または陰または直腸に進展するもの，  
 および/または  
 (2) 一側の所属リンパ節転移があるもの  
 VIA 期：腫瘍が次のいずれかに浸潤するもの  
 上部尿道，膀胱粘膜，直腸粘膜，骨盤骨および/または両側の所属リンパ節転移があるもの  
 \*浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする。

表 2. 新 FIGO 臨床進行期分類 (2008 年)

赤字が変更箇所

(0 期は削除された)  
 I 期：外陰に限局した腫瘍。  
 IA 期：外陰または会陰に限局した最大径 2cm 以下の腫瘍で，間質浸潤の深さが 1mm 以下のもの\*。リンパ節転移はない。  
 IB 期：外陰または会陰に限局した腫瘍で，最大径 2cm をこえるかまたは間質浸潤の深さが 1mm をこえるもの\*。外陰，会陰部に限局しておりリンパ節転移はない。  
 II 期：隣接した会陰部組織 (尿道下部 1/3，陰下部 1/3，肛門) への浸潤のあるもの，リンパ節転移はない。  
 III 期：隣接した会陰部組織への浸潤はないか尿道下部 1/3，陰下部 1/3，肛門までであるもので，鼠径リンパ節，大腿リンパ節に転移のあるもの。  
 IIIA 期：(i) 5mm 以上のサイズのリンパ節転移が 1 個あるもの，または  
 (ii) 5mm 未満のサイズのリンパ節転移が 1-2 個あるもの。  
 IIIB 期：(i) 5mm 以上のサイズのリンパ節転移が 2 個以上あるもの，  
 または  
 (ii) 5mm 未満のサイズのリンパ節転移が 3 個以上あるもの  
 IIIC 期：被膜外浸潤を有するリンパ節転移  
 IV 期：腫瘍が会陰部組織 (尿道上部 2/3，陰上部 2/3) まで浸潤するか，遠隔転移のあるもの  
 IVA 期：腫瘍が次のいずれかに浸潤するもの  
 (i) 上部尿道および/または膀胱粘膜，直腸粘膜，骨盤骨固着浸潤のあるもの  
 (ii) 固着あるいは潰瘍を伴う鼠径・大腿リンパ節  
 IVB 期：遠隔臓器に転移のあるもの (骨盤リンパ節を含む)  
 \*浸潤の深さは隣接した最も表層に近い真皮乳頭の上皮間質接合部から浸潤先端までの距離とする。